

厚生労働省科学研究費補助金（地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業）
総括研究報告書

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）推進における新たな要素の同定と世界のUHC達成
に向けた我が国の施策検討のための研究

研究代表者 本田 文子 一橋大学経済学研究科・社会科学高等研究院

研究要旨 本研究は、SDGs 目標 3 に位置づけられる UHC について、国際政策レビューをもとに概念の変遷と新たな要素を整理し、日本の国際貢献の方向性を検討することを目的とした。研究は 6 つの WG で構成され、政策動向分析、健康危機、保健医療財政、医療の質、公平性を含め、UHC をヘルスシステムのレジリエンス強化という包括的視点から検討した。今年度の研究では、PHC 強化、包摂的カバレッジ、財政持続性、患者中心のケアとサービスの質、デジタル化などが重要課題として特定された。また、PPPR や健康危機対応との統合的視点の必要性も示された。最終年度にはデルファイ法を用いて関係者間の合意形成を図り、日本の制度経験を踏まえた国際協力への提言を取りまとめる予定である。

A. 目的

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) は、持続可能な開発目標 (SDGs) のゴール 3 にも掲げられている国際社会の重要政策課題である。UHC は、資源のプールと再分配を通して人々を高額の医療費の自己負担から保護するとともに、医療機関への支払い機能を活用することで、保健医療サービスの効率性および質の向上を図る制度として推進されている。

本研究では、国際政策レビューを通して、国際社会における UHC 概念の変遷および新たな要素を整理し、我が国による UHC 関連の国際貢献の要点を明らかにする。また、UHC における「新たな要素」を幅広く探索的に分析する活動と並行して、近年 UHC の礎石として重要性が高まっており、かつ我が国の経験を活かすことが可能なテーマである「健康危機」および「保健医療サービスの質」を重点課題として取り上げ、UHC との関連から詳細な検証を行う。

B. 研究の構成と手順

本研究班では、研究活動を以下の 6 つのワーキンググループ (WG) に区分し、研究分担者および研究協力者を配置して運営している。
WG1：UHC に関する政策トラッキング (Prospective review)

WG2：UHC 国際政策レビュー (Retrospective review)

WG3：健康危機と UHC に関する概念整理

WG4：健康危機と保健医療財政

WG5：保健医療サービスの質

WG6：日本の公的医療保険制度の公平性の分析

本研究班の中心課題である「UHC の新たな要素」の特定に関しては、WG1 がプロスペクティブレビュー (現状の政策トラッキング)、WG2 がレトロスペクティブレビュー (過去事例の分析) を担当し、関連資料の分析を進めている。

健康危機に関しては、COVID-19 パンデミックを契機として、健康危機への政策対応に関する国際的議論が高まっていることを踏ま

え、UHC の視点から概念整理を行うとともに、平時から健康危機に備えるために必要な保健システムの要件について、文献レビューをもとに検証を行っている（WG3、WG4）。

また、保健医療サービスの質については、近年、効果的かつ安全なサービス提供が UHC 達成の基盤として重視されていることを踏まえ、UHC におけるサービスの質向上に関する概念およびエビデンスを整理し、政策提言の取りまとめを進めている（WG5）。

さらに、日本の制度経験を国際社会へ発信するとともに、UHC に関する国際協力の指針策定に資することを目的として、日本の経験を検証する観点から、日本の公的医療保険制度の公平性に関する分析も実施している（WG6）。

C. 研究の進捗と概要

6 つの WG の今年度の研究の進捗と概要を報告する。各 WG は相互に関連し、UHC の達成を、サービスの質、健康危機対応、公平性を含む保健システム全体のレジリエンス強化という包括的視点から捉え、理論的・実証的知見の蓄積を進めている。

WG1: 2025 年 4 月から 2026 年 3 月までに公表された UHC 関連情報を継続的に収集し、テーマ分析によってグローバルな政策動向を把握した。分析の結果、UHC の重点課題は国・地域ごとに異なるものの、国内資源動員、PHC の強化、財政持続性の確保が共通課題として挙げられた。また、従来の人口・財政・サービスカバレッジに加え、効果的カバレッジや未充足ニーズへの関心が高まっていることが確認された。さらに、PHC 強化や社会参加を重視するアプローチ、不平等やサービスの質を含む多面的指標への移行、デジタル化や民間連携、人材育成、財政管理など保健システム全体の実装能力の重要性が一層強調されていることが明らかとなった。

WG2: UHC に関する国際政策レビューとして、主要国際機関が公式文書の中でどのような UHC 関連課題を重視しているかを分析した。初年度に WHO 世界保健総会（WHA）決議文を対象として 91 の UHC 関連テーマを抽出した成果を踏まえ、本年度は残る 11 組織の公式文書についてテーマ分析と傾向分析を実施した。その結果、保健課題 76 テーマ、保健システム課題 105 テーマを抽出し、組織間の重点領域や経年的変化を整理した。UHC の進捗停滞や新興感染症、気候変動、健康危機への対応など、新たなグローバルヘルス課題が政策アジェンダに組み込まれていることが確認され、UHC の概念自体がより包括的・多層的な方向へ展開していることが示唆された。

WG3: Pandemic Prevention, Preparedness and Response（PPPR）と UHC/HSS との関連性を整理し、日本のグローバルヘルス外交戦略を理論的に補強するための概念整理を行った。WG2 で収集した国際機関文書に加え、92 篇の文献レビューを実施し、PPPR、UHC、レジリエンス、保健システム機能等を統合した概念的枠組み案を作成した。さらに、過去のパンデミックが保健システムへ与えた影響や、効果的な PPPR とレジリエンス向上に寄与する要素・機能をインテグレイティブ・レビューによって整理した。その結果、保健医療提供体制やガバナンス、人材、財政に加え、ヘルスプロモーションが PPPR に不可欠な要素として位置づけられることが示された。

WG4: 公的医療保険制度を有する国における平時の公衆衛生システムと健康危機時対応を接続する財政フレームワークの検討に向け、WHO、OECD、世界銀行等の国際機関文献を対象とした迅速レビューを実施した。その結果、「公衆衛生と緊急対応のレジリエンスを高める財政メカニズム」をテーマとするスコopingレビューの研究プロトコルを作成した。本研究では、平時の保健医療財政と緊急時対応財政をつなぐ制度設計、資金配分、

ガバナンス構造を体系的に整理し、健康危機へのレジリエンス強化に資する知見創出を目指している。2026年度には本格的なスコopingレビューを実施する予定である。

WG5:「良質な保健医療サービスへのアクセス」という UHC の中核概念に着目し、制度・組織・コミュニティの三層から医療の質向上に関する研究を進めた。2025年度は、ソーシャルメディアを活用した患者報告情報や、医療従事者の内発的動機づけに関するスコopingレビューを実施し、コミュニティおよび組織レベルでの質向上に資する知見を整理した。また、制度レベルの介入として、患者報告アウトカム（PROs）および患者報告経験（PREs）の医療財政への活用に関するスコopingレビューのプロトコルを策定した。今後は、PROs/PREs を活用した支払い制度への応用可能性を検討し、医療の質と UHC を統合的に評価するための国際的優先課題を抽出するとともに、日本の国際協力政策への提言につなげる予定である。

WG6:日本の公的医療保険制度における公平性分析を実施した。2024年度に健康格差と医療アクセスの水平的公平性を分析した成果を踏まえ、本年度は医療保険財源における負担の公平性に焦点を当てた。2010～2022年の国民生活基礎調査を用い、垂直的公平性の観点から保険料負担構造を実証分析した結果、日本の制度全体では市場所得ベースで逆進的である一方、再分配後所得ベースでは累進的となり、一定の再分配効果が確認された。また、被用者保険では概ね比例的またはやや逆進的、非被用者保険では所得定義によって逆進から累進へ転じる傾向が示された。これらの結果から、負担の公平性は制度類型や所得定義によって異なることが示唆され、今後は世帯の消費支出を用いた分析や水平的公平性の検証が課題として整理された。

D. 研究成果の統合と我が国の国際貢献に関する提言の取りまとめに向けて

最終年度においては、以下の手続きを通じて、今後の我が国による UHC に関する国際貢献のあり方について提言を取りまとめる。

まず、WG1 および WG2 の研究成果を統合する。具体的には、各 WG で同定された UHC の「新たな要素」をショートリスト化し、それらを相互比較することで、共通点および相違点を整理する。特に相違点については、過去と現在で「新たな要素」に差異が生じた背景を、近年の国際保健を取り巻く政治・経済・地政学的文脈を踏まえて検討する。また、WG2 の成果は、WG1 で同定された新たな要素（テーマ）について、その変遷を過去から現在に至る時系列の観点から補完的に説明する情報としても活用する。

並行して、「健康危機」（WG3・WG4）および「保健医療サービスの質」（WG5）に関する研究成果を整理し、各テーマにおいて今後 UHC に関連して重要となるサブテーマを同定する。

さらに、本研究（WG1～WG5）で明らかとなった UHC の新たな要素に対する我が国の貢献のあり方を整理するため、デルファイ法を用いた調査を実施する。調査では、行政、プログラム実施機関、医療専門職、市民社会など、多様な立場から国際保健協力に関与するステークホルダー間の合意形成を図る。最後に、デルファイ調査の結果と WG6 の成果（日本の公的医療保険制度に関する分析）を総合的に検討し、UHC 推進に資する我が国の施策に関する提言を取りまとめる。